

平成 29 年度 第 2 回鳥取市総合企画委員会

日 時 平成 29 年 11 月 28 日 (火) 午後 2 時 30 分～午後 4 時 30 分
場 所 鳥取市役所本庁舎 6 階全員協議会室
出席委員 尾崎直美副委員長、坂本雄司委員、佐々木ターミー委員、下田敏美委員、
塚田比佳里委員、鳥谷マサ子委員、南部敏委員、松浦秀一郎委員、松本壽恵委員、
安田晴雄委員長
欠席委員 入江到委員、清水雄作委員、千馬高広委員、富岡庄一委員、西村賀代委員、
橋本智洋委員、長尾裕昭委員、森田わか子委員、森原昌人委員、山根滋子委員
鳥 取 市 市長、副市長、関係部(局)長(監)、政策企画課創生戦略室(事務局)

1 開会

○企画推進部 高橋次長

あいさつ

2 市長あいさつ

○深澤市長

あいさつ

3 委員長あいさつ

○安田委員長

あいさつ

4 議事

○企画推進部 高橋次長

ありがとうございました。それでは議事に入る前に先ほど市長からもご紹介がありましたが、新たに二名の委員の方が交代となっております。本日、長尾委員様はご欠席ということでございます。南部敏委員様、自己紹介を兼ねまして一言いただければと思います。よろしくお願い致します。

○南部委員

あいさつ

○企画推進部 高橋次長

ありがとうございました。それでは議事の方に入ります。鳥取市総合企画委員会条例第 4 条第 2 項の規定により、議長は委員長が務めることとなっておりますので、これ以降の議事の進行は、安田委員長にお願い致します。

○安田委員長

それでは議事の方に入らせていただきます。お手元に追加資料がございます。まずは追加資料から、ご説明いただきまして次に移りたいと思います。

○創生戦略室 塩谷室長

本日、配布しております追加資料の方から、説明をさせていただきます。追加資料ですが、2枚 A4 のものがございますけれども1枚目「県外からの転入者の転入事由について」ということで、前回第1回の総合企画委員会で本日欠席ですが、森原委員さんの方から質問がございまして、“県外転入者が増えているがその要因は何か”というご質問がありました。平成27年の上半期に、市民課の窓口に来られた市外からの転入者に対して、任意でアンケートを行っております、そのアンケート件数が247世帯となりますが、こちらのアンケート結果を集計したものが、この表になっております。

世帯主の転入事由ということで年代別に10代から70代以上という分類にしております。合計欄が右の方に記載しております、これを見ると転勤というのが103世帯41.7%で一番多い所です。次が大学等への進学ということで39世帯15.8%というような数値になっております。年代の一番下の構成比という所を見ていただきますと、20代が一番多く86世帯34.8%、次に30代が59世帯23.9%ということで、比較的、若い方が転入してきておられるということです。

もう一つ注目するのが、合計欄の一番右にU・Iターン内訳というのがあるのですが、Iターンが164世帯66.4%、Uターンが83世帯33.6%ということで、Iターンが2/3程度を占めており、多い感じがします。県外からの、移住者が増えているその要因は何かというと、一番は仕事関係、続いて転勤・就職・転職等での転入が多い所でございます。10代に関しては大学等の進学でありますし50代60代に入ってきますと退職または離職に伴う帰郷、もしくは介護というような事由でも鳥取に転入してこられているというような状況であります。1枚目の説明は以上です。

○安田委員長

ありがとうございました。また質問は説明後一括して。

○福祉部 中島部長

もう一枚の追加資料ということで、表裏のものを配布しております。政策評価ということでありますけれども、政策の中でサービス付き高齢者住宅の入居者80人ということでKPIがありますが、その集計が前回7月の第1回委員会で報告ができておりませんでした。

その結果を、本日お示ししていくものでございます。追加資料とふつてある面をご覧くださいますと、26年度末から今年の9月末までということで、入居者の推移を記載しております。施設の数が増えて定員の数も増えてきておりますが、今回の評価対象であります平成28年度末まででいきますと、施設は増えておりますが、定員が若干減っております。入居者も、県外の方も少し減っていますが、これは調査を各サービス付き高齢

者住宅に照会し、回答いただく訳ですが、その中で 1 つの事業者が、併せていろんな介護サービスの事業をやっていましたが、法律違反などあり、介護サービスの事業を県から取り消しを受け、併せてサービス付き高齢者住宅の運営を辞めたということで、ちょうどその時期にあたっており、調査依頼したが回答を頂けませんでしたので、集計上は減っております。実質的には減ってはいない訳ですがけれどもこういった結果になっているという状況でございます。

そして 9 月末時点ということで、記載をしておりますけれども、そこになりますと平成 29 年度になりましてサービス付き高齢者住宅の施設も定員も増えてきているという状況がございます。今年度計画しているものが 2 箇所ほどありますので、更に定員としては、80 人くらい増える予定となっております。入居者はまだ満室にはなっておりませんが、9 月には増えてきている状況でありますので、順調という訳ではないですが増え続けている所でございます。

○安田委員長

ありがとうございました。それでは協議事項の鳥取市創生総合戦略の取り組み状況についてです。資料は No1、No2 でございます。後で No3 と続けて一括で説明を頂きます。その後各委員からご意見がございましたら承りますので、どうぞよろしくお願い致します。

○創生戦略室 塩谷室長

失礼します。それでは資料 1、2 をご覧ください。資料 1 ですけれども鳥取市総合戦略施策評価一覧表ということで、こちらの方に平成 28 年度の外部評価が C・D のものを載せております。本日はこの管理番号順に資料 2 の方で説明させていただきます。説明の方は所管の部局の方で行いますのでよろしくお願い致します。では資料 2 の最初のページの管理番号 48 から説明いたします。

○経済観光部 浅井部長

まず管理番号 48、誘致企業とのビジネスマッチングによる地元製造業の成長分野の新規参入及び受注拡大の推進といった内容でございます。KPI の方が新規受注件数 10 件に対しまして平成 28 年度現在で新規受注件数 1 件ということで達成率が 10%という現状でございます。これにつきましては企業支援推進員、企業立地支援課により配置しております職員でございますが、日々市内企業を訪問しておりまして、ビジネスマッチングに勤めております。

しかしながら、誘致企業とのマッチングと限定してみますと、7 月の第 1 回委員会でも説明しましたとおり、誘致企業に求められる技術あるいはスピードに対応できる地元の製造業の企業が少ないと言ったようなことからなかなかマッチングの成立に繋がっていないということです。

こうした状況を受けまして、昨年 10 月より鳥取市が設けております「企業立地促進補

助金」こちらの方に、地元の中小製造業を支援するために、生産性の向上メニューという新たな支援メニューを設けました。具体的に申し上げますと、生産効率を上げるための機械化でありますとか、工場の増設等、こうした設備投資 1,500 万円を超える部分に対して 1/2 を支援させていただくといったことで、地元中小製造業の生産性の向上を図っていただくといったような新しいメニューを設けております。

平成 28 年度の 10 月から取り組んでおりますけれども、新たなこの制度は、平成 28 年度 8 件の指定を致しまして、実質的に平成 28 年度に 1 件の交付ということでございます。平成 29 年度に入りましてから合計で 11 件ということで、昨年 10 月から現在までで、12 件のメニューの取り組みを頂いておるということでございます。今後こうしたメニューを活用いただきまして地元の生産性あるいは技術力を高めていただいて、誘致企業からのビジネスマッチングに繋げていきたいと思っております。

続きまして、管理番号 50 番、中小企業等の製品の販路拡大及び技術競争力の向上に向けた各種展示会への参加促進ということでございまして、KPI につきましては販路拡大展示会の参加企業支援ということで 85 社、このうち海外出展を 45 社と目標立てておるものであります。これにつきましては、平成 28 年度現在で、述べ 26 社、うち 2 社が海外の展示会等への出展を頂いておるというものであります。こちらの方の補助事業ということで支援をさせていただいておりますけれども、平成 28 年度までは補助申請から出展、実績報告までを同一年度内に実施していただくというような制度でありましたけれども、なかなかこれは使いにくいといったご意見を頂きまして、今年度からこの補助事業を指定制度という格好をとりまして、補助の指定年度と事業実施年度が同一でなくてもよいといったような使いやすい制度に変えさせていただいている所であります。

平成 29 年 11 月本日現在で、この指定を受けておられる企業が 13 件ございます。そのうち海外で 1 件、これは韓国の方に展示・出展を頂いたという実績がございます。また今後 3 件の予定もございます。資料の方には、補助金交付が 3 件、実施決定が 9 件となっておりますから、現在では、合計で 16 件の予定も含めまして活用を頂く予定としております。使いやすい制度にしておりますので、今後も色々な企業の皆様に出展していただくように働きかけたいと思っております。

続きまして管理番号 52 番、6 次産業化の取組及び農商工連携による高付加価値加工品の開発・販売と海外輸出の推進といったことで KPI としましては農商工連携マッチング支援事業者 125 件を目標としております。平成 28 年度現在で、マッチングの支援事業者が 46 件というふうになっておりますが、達成率が 37% というふうになっております。これにつきましては、各年度 25 件の目標を立てておりました、5 年間合計が 125 件ということでございます。単年度あたりで見ますと、平成 27 年度も平成 28 年度も共に 23 件と達成率は 92% という実績でございます。

具体的な内容としましては、鳥取商工会議所の方に、6 次産業化の選任従事者を配置いたしまして、こちらの方の人件費及び事業費を市の方が負担させていただいていると

いうものであります。市内企業ヒアリング調査、情報収集などにより、市場ニーズとの課題を把握し、農産品等を商品化したり、あるいは経営につきまして専門家のアドバイスを受けていただいたりといったような支援をしております。

また、首都圏での販売等を実施いたしまして、このモニタリング等にもよりまして売れる商品づくりを研究している状況でございます。実績は先ほどお伝えしたとおり、延べ件数で言いますと37%ですが、単年度といたしましては、ほぼ90%前後の推移をしているということでございますので、平成29年度も継続して実施いく予定としております。

○企画推進部 田中部長

管理番号64番の人材育成確保の推進の中で進学者等の市内就職情報を配信するサポート制度の構築ということであります。この制度の登録者数700人というKPIを設定しておりますが、平成28年度の状況で総合評価がCということになります。取り組み内容の所、平成29年度の所に掲げておりますが市内・市外、あらゆる移住定住相談会、県の情報発信の制度の活用、地元就職ということで環境大学や自治連の総会などで資料配布したり、もちろん鳥取市のホームメディアも使ってということで終始広報に勤めている所でございますが、また今年度、今月からになってしまいましたけども関西圏の大学において「ふるさと鳥取県定住機構」と一緒になって大学に出向いて、就職の説明会、これに参加するということで、今年度後半になってしまいましたけども今関西の22大学25回こういった所に出向いて何とかこれで鳥取市、鳥取県東部の企業のPRに勤めていって、登録者数、ひいてはUターン就職、地元就職、こういったものを増やしていってという所が究極の目標でございますが、そういった物を取り組みたいと思っております。併せて新たな取組として成人式にUターン登録ブースを設けて、こういうところでもPRしていきたいと考えております。以上です。

○経済観光部 浅井部長

管理番号65番でございます。元々は市内企業への就職希望者に対する奨励金の支給といった所で書かれておまして、地元の中小企業の人材育成または人材確保の推進を支援するための事業ということで、平成28年度までは鳥取県地域創生人材育成訓練を受けた方が、この訓練を受けたのち180日以内に市内企業へ就職された場合、奨励金10万円を支給するといった内容の事業でございました。これにつきましては、平成29年度以降、鳥取県が人材育成訓練に取り組みれないということを受けまして、施策の見直しを行っております。

平成29年度からは、高校生の市内企業見学会を毎年実施いたしまして、KPIといたしましては、高校生の参加者数を500人と目標を設定するものであります。これまでも高校生に、地元企業を知っていただき、地元に着を促進するといった観点から、地元企業の見学というものには取り組んできております。平成28年度は、鳥取商業高等学校、鳥取工業高等学校、青谷高校、鳥取城北高校、敬愛高校の6校330人の生徒が、実質19

社の企業を見学していただいております。高校 2 年生を対象といたしまして実施しておりますが、平成 29 年度につきましては、この 6 校に加え緑風高校、智頭農林高校を増やしまして、更にこれまでは、高校 2 年生を対象にしておりましたが、より多くの高校生に見ていただきたいということで、1 年生まで対象を広げ実施する予定としております。

今年度につきましては、660 名を超える生徒が地元の企業を見学していただけるという予定としております。

○地域振興局 久野局長

管理番号 67 番、人材育成で、大学生の地区公民館配置など若い感性を取り入れた市民参画活動の積極的な推進ということで、公民館で大学生を受け入れて色々な経験をしてもらうということですが、平成 28 年度では、公民館の希望はあったのですが、大学生からの希望はなかったということで、受入地区公民館が 0 ということであります。

委員さんからも、色々な指摘でもっと工夫した方がいいということで、今年度からは、公民館の方から地域の課題なりどんな取り組みでということを出していただきまして、それらをもって、直接、鳥取大学、環境大学に出向き、公民館の期待していること、課題等も提示し、こんなことで関わっていただきたいという事を伝えました。大学の方も地域貢献ということを強く謳っておられまして、大学の方も、生徒に呼びかけてくださいました。平成 29 年度 8 月時点で、16 人としていますが 11 月の時点では、2 つの公民館に 18 名の学生に関わっていただいております。西郷地区公民館に 15 名の環境大学生さん、湖山西公民館に鳥大の学生さん、大学側とも非常に地域貢献の体験が交流であるということで、継続していきたいと意見もありますし、今年度の取組・成果等も見ながら続けていきたいということで進めている所であります。

続きまして、移住定住の関係で人材誘致・ふるさと回帰の充実ということで 72 番です。KPI として移住定住者数 1,100 世帯、2,000 人以上ということで大きな目標を掲げておりますけれども平成 28 年度の取り組み状況は、首都圏・関西圏に相談員を配置したり、いろいろな取組をしておりますけれども、平成 29 年度の取り組み状況は、先ほど田中部長の方でもありましたけれども、いろいろな関係機関と連携を取りまして、情報発信をしながら、また関西の情報発信拠点「麒麟のまち」、ここでの移住相談会も開催しております。ここは既に 3 回行い、4 回行う予定ですが、特に今年度は本市の方で、ふるさと鳥取市回帰戦略連絡会、19 の団体に加入していただいておりますけど、その団体の中からも出向いてもらって移住の相談を受けるという取り組みを続けています。10 月現在で 489 世帯 762 人という状況であります。

続きまして、73 番ここでは半農半 X など里山における多様なライフスタイルの提案ということであります。都市部からの田舎暮らしの趣向が高まっていますし、農業での生活ということですが、具体的に農業でということでは農業振興課と連携して、実際の農協の支援制度を説明したり PR したりしてはいますが、ここには書いていませんが、鳥取市は多様なライフスタイルをおくれるということで、最近、「すごい鳥取市

ワーキングホリデー体験」という事を週末に行っております。これも東京から、毎週末1人、2人お呼びして14世帯が、こういった体験をしていただいております。農業関係についての具体的な施策は、農業振興課の方をお願いしたいと思います。

○農業振興課 谷口課長

半農半Xについてということですが、本市におきましては、農業を志す担い手の育成ということで、「鳥取ふるさと就農者」という施設の整備を行っております。これまでIターンの移住定住者の農業を志す方の研修の場として支援してきたところであります。この研修終了されて、市内の各地で地域の中心となって農業をやっている方々を、生み出している施設があります。

こちらの施設につきまして、これまでは独立自営就農、要するに専業での農業を志す方を、研修する施設という位置付で行ってききましたが、今後につきましては、半農半X、兼業での農業を考えておられる方々、こういった方々に対しても、研修の場として提供していきたいというふうに体制を整えている所です。それ以外でも田植えや、稲刈りなど、そういった体験というものもお受けしておりますし、インターンシップなどそういった農業を知っていただく体験も受け入れている所です。以上です。

○地域振興局 久野局長

管理番号75番です。これも人材誘致・ふるさと回帰の充実ということで、Uターン支援登録制度に登録していただくということで、KPIが5,000人ということで、この数字が高いかなという指摘もありませんが行っております。平成28年度まで139名ということで、今年度の取り組みですけど、これも先ほどから説明しているように、いろいろ情報発信と共に、直接、関西の大学に出向いて、大阪、京都、神戸の22の大学、25回にわたってUターン希望者への説明等を行っております。Uターン登録者数としての、実数は158人です。一方で、この窓口にお問い合わせがあった時に聞き取り票というものを作成しております。窓口ができてから聞き取り票の登録者全体の数としては4,000件ほどあります。そのうちUターンの相談は1,105人ある状況です。ただここにあるUターン登録という数字は158人しかありません。その158人の内55世帯88人がUターンに直接結びついたということで35%近くのUターンの実施済みということになります。以上です。

続いて管理番号96番、魅力ある中山間地域の振興ということで、ここでは中山間地域の買い物支援、無店舗地区の解消、移動販売車等の運営支援ということでもあります。最終的には無店舗地区を0にしていくKPIを出しています。

平成28年度までですが、無店舗地区が中山間地域で5地区ありまして、その他は移動販売車が走っているのですが、平成29年度、買い物支援だけでは、なかなか運営が難しいということで、見守りを含めた福祉サービスということも、これは人件費の支援という部分が大きいのですが、そういった取り組みと絡めまして、無店舗地区の国府エリア3地区が業者によって運営され解消されています。残る無店舗地区は、旧市の中山間

地区 2 地区のみということで、実際、豊実・東郷の 2 地区は無店舗であるということですが。ただこの 2 地区におきましても、役員さん方との話の中で性急に解消といった流れになっていない状況もあります。実際には 2 地区が無店舗地区だということです。

続きまして管理番号 97 番、同じく魅力ある中山間地域の振興ということで、空き店舗・校舎・倉庫等を活用した地域振興への取組ということで、KPI として取り組む件数は 5 件ということでさせていただいております。平成 28 年度までコミュニティービジネスとかで 3 件ありました。平成 29 年度、この記述には 1 件として集落の施設、交流拠点の整備ということで 1 件挙げておりますけども、もう 1 件 9 月補正で、用瀬の空きビルを利用したアーティスト等の拠点、地域交流の拠点整備ということが、今進んでいます。29 年の取り組みとしたら 2 件ということで、累計では 5 件達成しているという状況であります。

○都市整備部 綱田部長

失礼いたします。都市整備部長の綱田と申します。管理番号 106・107 番ということで中心市街地の活性化ということで、にぎわいの創出等を目的とした民間イベント等の開催支援と、鳥取駅周辺の回遊性の向上とにぎわい空間の創出ということでございまして、KPI でございますけども中心市街地におけます主要地点の歩行者・自転車通行量、平日休日共に 18,200 人としております。この中心市街地の取り組みですが現在第 2 期中心市街地活性化基本計画に基づいて推進している所でございます。この 2 期計画につきまして平成 29 年度をもって計画期間が終了いたしますので今年度新たに 3 期計画を策定いたしまして国の認定を目指している所でございます。中心市街地の現状、この計画策定にあたりましては中心市街地の現状や市民のニーズ、2 期計画の検証等行い課題を整理いたします。その上で新たな目標を設定いたしまして更なる取り組みを推進したいと考えている所であります。イベント関係でございまして商店街と連携した街歩きイベントといたしまして「とっとり歩き愛です（とっとりあるきめです）」や本のリサイクル市、鳥取駅や商業施設が連携をいたしました鳥取駅前マルシェ、防災フェスタなど官民が連携した様々なイベントを開催いたしまして、集客力や回遊性の向上、商業の振興に努めております。

また駅周辺ですが、鳥取市中心市街地活性化協議会が設置している鳥取駅周辺エリア連携会議、この会議を中心として、官民が連携して周辺での取り組みを推進する為、テーマ、ゾーンの設定、目指す町の姿等、構想として取りまとめを行っております。先ほどの 3 期の中心市街地活性化基本計画の反映を行っている所であります。

具体の取り組みとしましては、第 3 期中心市街地活性化基本計画につきましては、さる 10 月 18 日から 11 月 6 日にかけて計画案の市民政策コメントを実施し、年度内の国の認定を目指している所であります。また、中心市街地活性化のイベントの開催状況ですが 29 年 11 月現在であります。開催が 15 イベント、鳥取太平線バードハットイベントにつきましては 9 イベントというような状況になっております。なお、11 月 2 日、5 日

に、この実地点におけます歩行者・自転車通行量の測定を行っておりまして、速報値ではありますけれども、平日につきましては 18,547 人、休日におきましては 16,432 人の通行量を確認している所であります。

続きまして管理番号 109 番、リノベーション手法を用いた遊休不動産の再生・利活用によるまちの魅力向上ということでございまして、KPI は遊休不動産の利活用件数:5 か年累計で 15 件以上ということで、単純に 1 年平均で 3 件程度という KPI の設定をしております。一昨年度におきましては、この活用が 3 件、昨年度が 2 件ということで累計 5 件の活用が行われている状況でございます。このリノベーションの取り組みでございますが、本年 3 月にリノベーションまちづくりの方向性でありますとか、官民連携の方向プロセス選考エリア等を示した、鳥取市リノベーションまちづくり構想を策定しており、この構想では、楽しい暮らしを自ら作り出していける街というのを目指しまして、地域住民・大学、民間まちづくり会社等と連携した遊休不動産の掘り起しや、事業化に取り組もうとしているところであります。

今年度は、鳥取大学と一緒に地域住民と連携した遊休不動産利活用の推進に関する調査等を行っております。また空き家会議ということで、構想の中での位置付けられている会議でございますけれども、こういった会議の開催、講演会等を通じてリノベーションまちづくりの周知でありますとか、遊休不動産の利活用を実施しているところであります。

また、遊休不動産の掘り起しや、地域課題解決のための利活用推進するためとしまして、地域おこし協力隊を配置することとしております。現在隊員の方を募集中という所でございます。

さらに、リノベーションスクールの開催を通じまして、人材育成でありますとか、更なる事業化を推進することとしております。平成 29 年度の事業化につきましては 1 件、末広温泉町でバーと居住スペースの複合ビルということで 4 月にオープンしております。また、今後 1 件の事業化が進められているというふうに承知をしている所でございます。リノベーションまちづくりにつきましては以上でございます。

○安田委員長

ありがとうございました。手前にお話ししていただいたのですが資料番号 3 については。

○創生戦略室 塩谷室長

資料 1 の一番下の方に平成 29 年度に施策を見直しするものとありますので 65 番は再掲ですので、先ほど説明がありましたので、74 番の方を説明させていただいてから次に進みたいと思います。

○経済観光部 浅井部長

平成 29 年度より見直しをした管理番号 74 番であります。これにつきましては、鳥取市無料職業紹介によります UIJ ターン希望の求職者と市内企業のマッチング支援という

ことであります。元々、鳥取若者インターンシップ等による求職者と事業者のマッチング支援という内容でしたけれども、若者インターンシップの希望者と有効求人倍率が高まっているといった内容を受けまして、UJI ターン希望者と市内企業とのマッチングというふうに見直しをさせていただいているものであります。

具体的に申し上げますと、経済・雇用戦略課に配置しておりました産業人材確保推進アドバイザーで、鳥取市の無料職業紹介を行ってございましたけれども、こちらの方につきましては、地域振興課の方に配置しております移住定住相談窓口、こちらのほうと合体させまして UIJ ターンによります求職希望者にも支援を行っていくという内容に変えさせていただいております。なお、平成 31 年度からは移住定住交流ガーデンでの就職相談にも対応できるような体制を取りたいというふうに考えております。

○安田委員長

ありがとうございます。質問の一覧表は先にやっておいた方がよろしいでしょうか。重複するところもあるかもしれませんが 65 番と 109 番。資料 3 として事前に配布された資料について、今回質問が来ておりますので質問に対して回答していただきたいと思えます。

○経済観光部 浅井部長

管理番号 65 番の 1 点目、鳥取県東部圏域の高校生の企業見学会への参加はどれくらいあり、就職が内定した人数はどれくらいあったのか。また、高校卒業者の何%かという質問でございます。先ほど申し上げましたとおり、高校生を対象に、ここ 2 年を通して東部圏域にも広げた企業見学会に取り組みをさせていただいております。

このうち平成 27 年度に実施を致しました、鳥取湖陵高校・鳥取工業高校・青谷高校・鳥取城北高校・鳥取敬愛高校の 5 校の就職実績調査をさせていただきました。5 校の卒業生 744 名の内、就職者数は 261 人で 35%となっております。就職者 261 人の内、市内企業への就職は 178 人で 68%となっております。県外企業への就職は 57 名 22%という結果となっております。先ほど事業の方でも申し上げたとおり、今年度から、緑風高校・智頭農林高校を加え、さらに全学年対象と広げていくということで参加の見込みが、今年度については 662 名となっております。

2 点目の鳥取市出身の大学生が県内就職何%、県外就職何%ということでございますが、鳥取市出身の大学生の就職状況というものを把握できておりません。ただ 21 日に鳥取労働局の方が来年 3 月の新規大学生の就職内定状況といったものを公表されておられます。

大学生の就職希望者数が 1,207 人ということで前年に比べ 10%の増加という内容が公表されております。更に 10 月末時点で大学生の就職内定者ですけれども、こちらの方が 901 名ということで前年の同期 827 人と比べると 8.9%の増加となっております。また県内に就職を希望している大学生ですけれども、県内就職内定者数 123 人ということで前年同期が 117 人で 5.1%増加しているといったような状況が鳥取労働局から発表されております。

○創生戦略室 塩谷室長

3点目、県内に何%の若者がとどまれば将来人口が少しずつでも増えるとかいう目標%はありますか、という少し難しい質問なので回答になるかどうかというところなのですが、国勢調査を行っておりまして、直近が平成27年なのですけれども平成22年と対比しての数値で比べてみました。

鳥取市の人口が減っているのは若者の転出が多いということで、人口が減っているのですけれども、5歳ごとの年齢区分別に男女別の人口比較というものをしてみました。男性は20~24歳の層が、次で25~29歳の層に移動するときが一番移動が大きくて減少幅が大きく、女性の場合は、15~19歳の層が20~24歳の層に移動するときが一番減少幅が大きいということがございます。22年の女性15~19歳の方が4,726人、これが5年後の平成27年に4,143人ということで583人減少ということで-12.3%の減少ということです。男性の方で行くと、22年20~24歳の層が5,728人で、5年後の25~29歳の層で4,660人、1,068人の減少で、千人を超える減少率は-18.6%ということでありまして。男性女性平均いたしますと大体15%くらいの減少率ということでありまして。

このあたりの年代は、大体年間2千人くらいの出生だったものですから、そこから同級生が2千人いるとして15%、300人程度が、鳥取市に留まってくると人口がそのままというか減らないというようなことがいえるのかなと思っております。ただ現在、出生数が1,600人くらいということで、ずっと15%だと、だんだん減っていくと思っておりますので、15%から20%くらいが留まっただけだと減らないというか増える方に行くのではないかと推測をしております。

○都市整備部 網田部長

管理番号109番の、地域の課題を見つけるために、どのようなリサーチを行っているのかという質問でございます。現在の取り組みといたしまして、街中居住というものをテーマとしまして、居住ワークショップというものを、平成28年度6月、7月、そして29年3月に開催しております。28年につきましては、市民の方を対象として開催し、29年のワークショップにつきましては久松地区・遷喬地区の市民の方を対象として開催したものでございます。

また、こういったリサーチ、直接という訳ではないのですが、先ほどの3期の中心市街地活性化基本計画の策定をする段階で久松・遷喬・醇風・日進・明德で関係自治会の方に意見交換会ということで出させていただいているということがございます。このように、地域に出向いてのワークショップの開催でありますとか、意見交換を積極的に行う中で、地域課題の把握に努めているところであります。

これまでの取り組みの中で、地域の方からは特にコミュニティーの弱体化というようなお話も出ておりまして、一つ地域の課題であるという認識をしております。先ほど説明させていただきましたように、今後、地域おこし協力隊員を配置いたしまして、地域住民と協力した空き家等の掘り起しでありますとか、地域の課題解決につながる空き家

の利活用の検討を行いたいと思います。また来年度以降になりますけども、鳥取大学と連携致しまして地域と一体となってコミュニティーの強化等につながる空き家等の研究を行いたいと考えております。できれば、モデル的に空き家の活用等の取り組みをしていければと思います。その流れの中で、今年度、その前段といたしまして遷喬地区の住民の皆様を対象としたアンケートによります予備調査、これは空き家の状況・現状についてということでアンケートを実施させていただいております。以上でございます。

○安田委員長

ありがとうございます。一通りご説明をしていただきました。只今より皆様から質問をしていただければと思います。鳥谷さんからという形でさせていただきます。時間的には基本的に3分から5分くらいでお願いします。

○鳥谷委員

先程お答えいただきました管理番号 65 番なのですが、なかなかお調べいただくのが大変な数字だったと思います。私自身もこれが多いのか少ないのか、減っているのか分からないのですが、人口が減らない為には出ていく人を減らす方が一番早いかなと思ひまして、それで就職する所があれば若い人もいてくれて、出会いがあつて結婚していただいてお子さん作っていただいとというのが、一番いいかなと思つていて、どのくらいの方が、市内に就職して留まってくださると、鳥取県、鳥取市の人口が減らずにずっと続けていけるかなと思ひこういう質問をさせていただきました。今、個人情報とかが教えてもらえない時ですので、お調べいただいてありがたかったです。この数字で色んな目標を立てていただけたらなというふうに思ひます。

○経済観光部 浅井部長

平成 27 年度の高校生、5 校ということで先ほど説明させていただきました 744 名中就職総数が 35% の 261 名ということでもあります。458 名は進学されているということですので、おそらく多くの進学された方が、県外に出ているのかなというふうに思っております。県内の大学生でも、大体 1,200 名の内、10 月末現在で県内での就職内定者が 123 名ということでもありますので、ほぼ 1 割ということでもあります。このあたりをもっと高めていけば、県内の人口も社会減の減少に繋がるのではないかと思っておりますので、どの程度の数字というと、今後の検討課題でもありますのですが、できるだけここを大きくして行けるよう努力したいと思っております。

○安田委員長

ちなみに管理番号 65 番に関連してでありますけども、当社は、今年 5 名の高卒の方を採用させていただいて、大変ありがたいのは 2 年生の時に企業の見学会に参加させていただきました。2 年生の時から当社に入ることを決めていたと仰られる方が一人おりました。大変ありがたいなど、それからもう一名は 2 年の時にインターンシップでしていただいているのですけれども、その子も他社を受けずに当社を受けていただいたということで、説明する人間が、非常に私たちの会社には少ない訳ですし、そういう話をするとま

た力を入れて頑張れるのかなということでありまして、この企業見学会・インターンシップに関して、結構意味があるなということで改めて大事なことだと分かった次第であります。

○南部委員

日頃、私が感じていることを申し上げてもよろしいのでしょうか。例えば管理番号 96 番でしょうか、いわゆる買い物を支援していくということなのですが、確かに現在、我々の集落にもこういう買い物の車が来ております。しかし買いに出る対象のお客さんはお年寄りの人が対象でして、少ないときは 0 人、多いときでも 3,4 人という状況が続いていて、他の集落でもそういう傾向だろうと思うのですが、取り組んだ最初は結構大きなマイクロバスで商品も多く、来たよという宣伝の音も結構大きく宣伝してやってくれていたのですが、どうしてもそういった悪い状況が続きますから、採算が当然合わなくなって、車が軽自動車のバンというのでしょうか、そのくらいになって商品も少なくなり、来たよという音楽の音も小さくなって、いつ来ていつ帰ったのか分からないというような状況が続いております。やっぱりこれから高齢化はどんどん進むわけですし、使われる人は多くなってくると思う訳でして、やはりやる事業者としては採算が合わなければ撤退するというのが考え方ですので、これを充実させるためには鳥取市がその事業者に対してバックアップしていく、補助ということになると思いますけどもこういうようなことをやっていただけるのか。ここで文字では書いてありますが現実はかなり厳しいと思います。

他にも 106・107 番に中心市街地の活性化ということが書いてありますけれども、私は鳥取の中心市街地、特に若桜街道ですけれども、これは物売り合戦をやっても活性化になるわけじゃないので完全に商圈が移動していますので、やはり考え方をガラッと変えていただかないといけないということで、例えば鳥取市内は文化・芸術・神社・仏閣が沢山ありますので、そういうものを巡るコース、今までもやっておられるのでしょうかけれども、そういうものを発想を全く変えて、そういった街づくりをしていく。これから、ものづくりで対抗できるのは鳥取駅周辺、庁舎ができますがあちらの方は何とか持つんでしょけれども、若桜橋から県庁側はこれから現在以上に悪くなるというふうに思いますので、体験型と言いますか、そういった街づくりをされた方がいいのではないかと思います。

○地域振興局 久野局長

仰られるとおり、買い物支援、いわゆる中山間地域の少子高齢化集落を、移動販売車が回るということで、当然、人数の少なく、高齢者、お客さんも少ないということで、それぞれ事業者が苦勞して移動販売を続けていただいている所です。ここで言ったとおり経営が難しいということで、これは県と協調しながら補助制度を設けておりまして、買い物支援だけでは難しいということで、平成 29 年度から福祉で見守りをしてもらうということで、見守りの部分で人件費を手当てして、買い物福祉サービスというこ

とで新たに継続取り組みをしていただいております。車両等の導入費もそうですけど燃料代等の維持費も通常であれば 5 年補助していくが経営努力もしていただきたいということで補助率もだんだん下げるような形ではありますけれども、そういった取り組みをしていただいておりますし、車両の更新等についても支援させていただいております。音量等の話も持ち帰って事業者と話してみたいと思いますし、地元に対する PR 等も支所と連携しながら進めていきたいと思っています。

○南部委員

どんどん利用も少なくなっているというのは、品物が減って自分たちが要求するような品物がないから利用されないということも考えられるのですよね。

○地域振興局 久野局長

それは考えられると思いますけれども、以前は、なかった場合、1 週間後に持って来ていただけるという事でした。現状は、ちょっとよく解りません。

○都市整備部 綱田部長

中心市街地の活性化のポイントとして文化・芸術・神社・仏閣等を活用した観光というご指摘でございました。今、第 3 期中心市街地活性化基本計画の策定をしている段階でございますけれども、まさにその中でも一つの目標といたしまして、地域資源を活用した一つの交流人口の拡大ですとか、そういった交流人口の拡大によりまして、滞在・回遊による経済の向上を目標と掲げている所でございます。

地域資源を活用した人口の拡大につきましては、現在、久松山の鳥取城跡ということで大手登城路の復元事業というものが進められております。来年、擬宝珠橋の姿が見えたりとかという状態で着々と目に見える形でこういった城跡の整備が進められている所でありまして、お堀端の道路もそれに合わせて、美装化ということで再整備を行うという取り組みを進めております。その他にも、文化芸術を活用した市街地の街中観光の促進というのもテーマに挙がっておりますので、そういった視点も十分に取り入れた上で中心市街地の活性化に取り組んでいきたいと思っております。

○松浦委員

私の方からは 4 点質問とお願いがあります。はじめに安田委員長の方から冒頭にポケモン GO の話がありましたが、僕もポケモン GO はガイナーレの試合の最中、試合が動かない時に少しやっただけなのですが、今回のイベントは、結構特例的なものだと思っております。9 万人の方が鳥取を訪れたと思うのですが、街中の混雑も含め、その時の混雑は、確かに批評批判されることはあると思います。ただですね一つ聞きたいのが、私の実家は若桜街道と智頭街道の間にありまして栄町という所なのですが、毎年しゃんしゃん祭があると、自宅がブロックされてしまって陸の孤島なのです。更にいうと私の家業はタクシー会社です。タクシー会社が陸の孤島に事務所を持つと、仕事自体がストップするということがありますので、ポケモン GO は何年たっても同じようなイベントがあるか分からないのですが、しゃんしゃん祭は毎年あるということで、半分冗談ではある

のですが、私にとっては、しゃんしゃん祭の方が毎年危機感を感じながらやっている所があるというのを一つ申し上げます。

二つ目は管理番号 73 番の、半農半 X で多様なライフスタイルの提案をしていきましようという所なのですが、先ほどの話で私の会社がタクシー会社で、農業をしながら運転手をしているという人も結構いて、農業だけでは生計を立てる自信がないと考えている県外の移住希望者に対しても他の仕事も一緒にやるということで、タクシーってあまり挙がることのないのですが、タクシー業界をはじめとして他にもたくさん兼業が可能な仕事というのはあると思います。

これはマクドナルドの例えなのですが、ビッグマック一つくださいと言うのと、ビッグマックセット一つくださいというのでは、やはり購買意欲が変わりますよね。単品で売れるのは八頭バーガーくらいだと思いますので、折半して抱き合わせで紹介するというのを、今後イベントや相談会に出られる際にはお願いできればなというふうに思います。

三つ目は管理番号 106・107 番です。これは質問です。KPI、重要業績評価指標の方で通行量を出されていてそれに対する現状と言うのを出されていますが、これは大体、何時ごろの通行量なのか伺いたいです。というのも平日の一日の通行量を見ると結構意外に多いなという印象がありまして、僕の知っている鳥取の本通りは、こんなに人が多くないんじゃないかなという印象が何となくあります。イベントをするというのも KPI の評価指標の中に入れていただきたいと思いましたが、この歩行者・自転車の通行量を増やすというのは具体的に何時台にどういう人が通行しているというのを想定しているのか、もし具体的にそういった物がないのであれば通勤・通学で通過する人だけでなく、もっと回遊していそうな人を難しいかもしれないですが推し量れるような評価指標があれば、より現実が見えてくるのではないかなと感じました。

四つ目、先程は質問に対し丁寧に答えいただきありがとうございます。リノベーションについて、ワークショップをしたというのも納得し、理解したのですが、今更ですが、リノベーションという言葉に対してハードルを高くしすぎていないかなというのが今の発生率を見ていて、何となく感じたところです。実は僕の知り合いにも、街中に比較的新しく綺麗な物件を持っている人が居るのですが、なかなかそこをテナントに貸し出しても、事業者が定着しなくて、一回借りては離れる状態が続いていて、こうやってリノベーションをして別に遊休不動産を活用しなければ町は活性しないかという必ずしもそうではないと思いますし、「遊休不動産を」という時に「リノベーションを」というとなんとなく、アートとか、カルチャーとかそういったニュアンスが含まれてしまう部分が、起業したいと思っている人は、もしかしたらハードルを高く感じてしまうんじゃないかと思います。もう少し事業したいか、起業したいか、街中で暮らしたいかを聞いて、必ずしもそれがリノベーションをすることが始まりではなくて、町で何かをしてみたいという人が居て、そのツールとしてリノベーションがあるというふうに捉えてみ

れば、もう少し街中で何か始めたい、住んでみたいという人の取組みやすくなるのではと感じるんですがそのあたりについてお考えを伺えればと思います。

○安田委員長

ありがとうございます。では最初から。管理番号 73 番の半農半 X に関しては、どなたが。

○地域振興局 久野局長

ご指摘のとおり、多様なセットで紹介ということで相談会、東京・大阪全体で 30 回近くやっておりますけど、出向いて色んな鳥取の暮らしができますよと紹介させていただいていますし、鳥取ふるさと就農者が農業振興課の方で所管なのですが、ここでは農業体験として、正規の就農のための 2 年間というものがあるのですが、そうではなく 1 日とか 1 週間で農業体験していただいていますし、インターンシップとしての 2 週間とか 3 ヶ月、そういった紹介もさせていただいています。

先ほど説明しました鳥取の体験、すごい鳥取市ワーホリということで、東京から来ていただいて週末 1 人 2 人、中には親子で参加いただきましたけれど、それぞれいろんな体験をしながらセットでというか、楽しみながら生活していただけますよという紹介をさせていただいております。

それとこれは移住された方になってしまいますが、鳥取ふるさと UI 会という組織が、U ターン I ターンされた方で作られた組織があります、そこには、農業をしながら色んな趣味活動されている方もいらっしゃいますので、そういった仲間との交流をしていただきながら、鳥取暮らしを満喫していただきたいなと思いそれも紹介させていただいております。いろんなパターンを提案していきたいと思っております。

○都市整備部 綱田部長

まず時間帯のお話でしたが、日中ということではございますが、何時から何時という具体的な時間帯は申し上げられませんので、また、これについては後ほど解答させていただきたいと思いますが、今回 KPI の部分で速報値が高すぎではないかというご指摘、またその時間帯についても、その中でどうなのというご質問だったかと思えます。実はこの調査を行っておりますのが 11 月 2 日ということで、例えば駅では砂のルネッサンスだとか関連するイベントもあったと聞いておりますので、そういったイベントに出向かれた人の流れ等が、何かしらの影響を与えているのではないかと思いますけれども、まだ詳細な分析等行っておりませんので、そういう影響があるだろうというところであります。

次にリノベーションそのものの言葉自体が、そういった活動の意欲等にハードルを上げているのではないかということでありましたが、先ほどの説明の中でも、少しこのリノベーションのまちづくり構想を策定しましたとお伝えしておりますが、その中では、リノベーションまちづくり会議ということで情報交換というか、そういった各種の連絡調整であったり、とにかく事業を進めるための会議ということではなくて幅広に、物件

を持っておられる方のお悩みであるとか、まさにその中心市街地で何かしらの活動を行いたいというような方々の情報交換の場というような機能もこれに持たせて運営していきたいと思います。ご指摘のとおり、リノベーションすることが目的ではございません。そのことにより町の元気を取り戻していこうということです、なるべくハードルを上げずに、啓発であったり、こんな活用ができますよと言ったところから広げていって、ハードルを上げないような取り組みをしていきたいと考えます。

○松本委員

私の方は管理番号 65 番で、先ほど高校生の方の、市内企業への就職率が 68%あるということでお聞きしましたけれども、大学に行ったら県外に行って帰ってこないという、そういう仕事の中で、高校生で止まってくれる人が居るということだとすると、教育現場としては、キャリア教育というものをしっかりしていくことが大事だと思います。先ほど安田委員長様からも見学をして、体験して、入社してくれるというようなことがありましたけれど、やはり良さを実感していただけないと、あまりそこに行かないということがありますので、鳥取で暮らす良さというのは、育ってきた良さだと思うのですが、よそに行ってみなければ、その良さが分からないことが多いので、行ってしまってから感じる故郷を良かったなと思うとかってあるんですけど、やはり鳥取の良さを、もっとアピールするべきだと思います。

暮らしやすさの第 1 位が、鳥取になっているのに、何故それが働きやすさとかになっていないのか、一つは大企業がないし、零細企業ばかりで、お店がオープンするとなるとチェーン店ばかりでセブンイレブンであったり、ローソンであったりと、個人商店が全部やられているような状況。鳥取駅前も本当に駅前だけで、若桜街道から向こうは、店があるんだけども中身がないというような状況で、やはり車社会の中の、まちづくりがなされていないということが、とても大きいと思います。今、北イオンはすべてが揃っている訳です。車社会に対応したまちづくりがなされているのに、古いものが残っている。ではそれをどうするかというところが、駅前の活性化だと思っているんです。古いものが駄目なのではなく、古いものにもいいものはあると価値付けをどうしていくかということが大きいんだろうなということです。

先ほど、ポケモン GO の話題が出ておりましたけれども、すごく対照的だなと思ったのは、県はポケモン GO を鳥取砂丘でどうぞということで全国から人を集めました。鳥取市はそれに対応していたのか、していなかったのか、北前船で鳥取は、こういう歴史がありましたと言う事だったと思うんです。だけどここのあたりの連携とか古いものを大事にしている鳥取市というのはいいなと思う反面、やっぱり新しいものを取り入れていくというのは必要かなと思っているのですが、そのあたりがこの 3 日間だったと感じております。

鳥取城跡の整備を聞くことがあるのですが、今日、鳥取城跡の載っている雑誌を見ました。お城関係の雑誌に出ていました。石垣ですけども、そういう全国にアピールで

きるものがいっぱいあるということ、教育現場でも取り入れていくことが大事ではないかなと思います。自分たちの財産を、自分たちが知らなさすぎというのが大きいと思います。

今日の新聞だったのでしょうか、道徳の教育読本の第 2 巻ができたということで、教育で道徳が 2018 年度から強化になるということで、道徳の本としてはあるのですが副読本ということで、鳥取の教育研究会の方が作ったということで新たに出ている中で、人間国宝の前田さんの事が載っているということで、亡くなった方を、偉人として載るのは多いのですが、生きていた方が出たということですが、その前田さんの話でも田舎の鳥取だからこそ、この白が、白磁ができたということですが、やはり鳥取の良さを教育でも感じてもらうというか、子どもたちも感じてはいるけれど、よそでは感じられないものなんだということが、欠けているのではないかと思います。欠けてはいないかもしれませんが、もっと出してもいいと思います。大変とりとめがないのですがよろしくをお願いします。

○深澤市長

非常に幅広いご意見・ご提言をいただき有り難いと思います。ポケモン GO と北前船が重なったのは本当に、たまたままでございまして、県の方の話によるともう 1 週間早めてやる予定だったのですが、会社の方がうまく調整がつかず、たまたま北前船のフォーラムに重なってしまったということでありまして、北前船の方は、安田委員長にも大変ご尽力いただきました。数年前からずっと進めてきた取り組みでありまして、ポケモン GO が悪い訳ではないですが、重なったのは混乱等も生じて、ちょっとどうだったかなという思いはあります。古きものも大切にしながら新しいものも取り入れていくということは、いつの時代も非常に大切なことだと思います。この北前船も、かつては日本海側が活気があり、陸路が非常に不便だったということもあり海路で物流だけでなく、文化等も出入りしていたということで、そういう寄港地同士がもっと交流を深めていこうということと、この地方創生で日本海側が、もっと活力のある魅力ある地域圏域であるようにという願いをもって取り組んでいるものであります。また、国内はもとより国際色豊かなものにしたいということもあり、鳥取市が交流しております環日本海同士の市民の皆様の参加も頂いて、盛会裏に開催がさせていただけたのではないかと考えております。

鳥取城跡についても、ご存じのとおり、今年は大きな節目の年でもありまして 1617 年、池田光政公が 32 万石の藩主として入城されてから、今年で 400 年という大変大きな節目の年であります。32 万石というのは今の鳥取県域とほぼ重なるようなところでありますので、鳥取県がスタートして 400 年という見方もできるのかも分かりませんし、このあたりの城下町としての町並みが本格的に整備され始めたというような時から数えて 400 年という事でありまして、私たちは 400 年を別にしても鳥取市の歴史や文化を時には思い起こしてみることは、非常に大切なことだと思いますし、それは小さな時からその様

であるべきだと思いますし、故郷に愛着を持つ、誇りを持つということ、我々も子どもたちに求めていかないといけないと。それはこうしたらそうなるというものではありませんので、総合的に教育現場でも私達一人一人も考えていかなければならないと思っております。

私は最近、前田さんともお話をする機会があったのですが、ものづくりをするという面で大変すばらしい環境にあるというふうに盛んに仰っておられたように思います。みんなが、そういうものづくり・伝統文化・工芸に関わらず大切にしていこうということと、全国に誇れるものが鳥取県にはあるんだと、再認識・共有することが必要ではないかと思っております。いろんな形で我々も努力していきたいと思っております。

車社会にふさわしい、そういう見方・考え方もあると思いますが、かつてに比べて郊外型の店舗が、非常に賑やかになったというのがありますが、一方では中心市街地の、賑わいを取り戻したり、そういったことも非常に大切だと思います。これは全国的に中心市街地の活性化に取り組んでおりますが、これはなかなか難しい問題でありまして、一朝一夕にはいかない所もありますけれども、鳥取市は平成19年11月30日だったと思っておりますが、第1期の中心市街地活性化基本計画を内閣総理大臣の認定を頂いて、今2期目の5年の一番最後の年になりますけれども、いよいよ来年度から第3期について新しい内容も、盛り込みながら取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。回答になっていない部分も多々あったかなと思っておりますが、またご指摘いただければと思います。

○塚田委員

まず先ほど、松本委員様が言われたように私共20代の男の子が3人おりまして、一番下が今大学の3年生です。3人とも関東に出ているのですが、先日3番目の子が「ふるさと定住機構」の話が大学であるから大学の方から声を掛けてもらって、鳥取に帰るとこんなふうだよという話があるから、ぜひ来てくれといわれ、それに参加したと報告してくれました。でも主に農林水産業、特に林業・農業の話が主で鳥取市内で働くというのはどんなんだろうとなり、あまり興味が持てなかったと言っていましたので、やはり大学生が何をどういうふうにキャッチしていくか、どういうふうに鳥取に帰ろうと思うかというのが、もう少しきちっとリサーチできていたらよかったですと思っておりますし、話としては面白かったし、鳥取に帰ればいっぱい遊べるということもよく分かったと言っていました。今の所鳥取大学とかに友達がいるので必ず帰ってきますし、帰りたい気持ちはあるようだが、暫くは関東の方で働いてみたい。そのうち帰るからというような回答でした。

2番目の息子は、関東で公務員になりました。彼は鳥取に帰っても友達がみんな県外にいるから帰らないというふうに言いました。長男は帰りたい気持ちはあるけれど、今の所関東で働いていると、その仕事が面白いから向こうで働き続けたいと言っています。つまりうちには、夫と私と高齢の母が住んでいる訳ですが、そういう家が沢山市内にあ

りますし、息子たちの同級生の所を見てもみんな子どもたちを送り出して、なかなか帰ってこないというのが現実ですが、帰りたい気持ちはあるというのが少し希望で、やはり働くところ、自分の大学で身に着けた知識と、県外で身に着けた技術とかが活かされるところがあれば帰るだけなどというのが本心の所だと思います。先ほど管理番号 64 番で関西で「ふるさと定住機構」と一緒に大学生に出向いて鳥取の情報を 22 大学 25 回関西圏においてというご報告がございましたけれど、やはり関東の方がすごく鳥取の子がたくさん出ているのではないかなと思います。鳥取に帰りたいという気持ちのある子は、結構関西に就職しているかもしれませんが、やはり大学の数が圧倒的に多いので関東に出ている子は、すごく子どもたちの周りを見ても多いと思いますので、是非関東圏でもお願い致します。みんなどこかに帰りたいという気持ちはあるように思います。

小さいころから 10 年ほど、砂丘で子どもたちと一緒にキャンプをしておりました。やはり鳥取市民があまり砂丘に行かないじゃないですか。皆さんよく行かれますか。でも本当に砂丘というような宝があるのに鳥取市民がなかなか行かないし、親が子どもを連れて行ってない、砂丘は楽しいと小さいときに体験してもらったらいいなと思ってずっと砂丘で遊ぶことをやっていたので、皆さん時々砂丘にも、ポケモン GO はされなくていいですので、訪れていただいたら、やはり大人が楽しそうでなければ子どもは、それを受け取らないので是非そのようにお願いしたいと思います。

それからインバウンドという言葉が 1 箇所出ておりました。管理番号 52 番、インバウンドを視野に入れた鳥取の食の魅力という行がありますが、その前の売れる商品づくりの為のなんたらかんたらでコーディネートを行うというふうに書いてはあるのですが、具体的な所がちょっと見えてこないの、これはどのようにお考えなのか。それでインバウンドを視野に入れるということはどういうことなんだろうとちょっと引っかかりましたので質問します。

○安田委員長

ありがとうございます。では先にインバウンドの件について。浅井部長でしょうか。お願いします。

○経済観光部 浅井部長

鳥取製品の紹介については、もちろん今までも取り組んでおりますし、今後も続けさせていただきたいと。新たな販路といたしまして、外国人向け、特にお土産等も意識したところでの取り組みを進めていきたいというふうに考えている所であります。具体的にどういったことでと、実は 12 月の初旬に全日空と連携致しまして、欧米を対象といたしました羽田空港をゲートとした欧米人の鳥取への誘客という事業を開始いたします。今回は、欧米人に日本の食を体験していただいて、新たな販路の拡大・誘客に繋がってきたいというような事業でございます。具体的に日本の曲げわっぱ等を利用した、お弁当作りでありますとか、賀露港での蟹のゆでる作業等こういったものも見学頂いたり、

食をテーマとしたインバウンドの誘客事業等も取り組んでいますので、でこうしたことと連携しながら新たな販路を拡大していきたいというような事業でございます。

○安田委員長

ありがとうございます。管理番号 75 番の時に、関西の大学 22 校に回っていますというものであったようです。25 回でしたっけ。その訪問をしたということで、ちょっと関連なのですが、22 校ということは 1 校に 1 回しか行ってないということで良いんでしょうね。先ほどの塚田さんの質問の中に関東の大学も含めたというような所も踏まえたところで説明を。

○地域振興局 久野局長

関西の大学の方ですが 1 つの大学に 1 回だけでなく、大学によっては、いくつか 2 回訪問して、そういった就職相談会の対応をしている所がありまして、22 校の 25 回という意味です。関東の方ですけども、ちょっと検討してみたいと思っております。関東にも相談員 1 名置いているのですが、関西と若干違うのが関西には関西本部に市の職員、所長もいまして、一緒に連携取りながら回れるという強みがあるのですが、関東の方は相談員が 1 人県の東京本部の方に置いているだけで、なかなか動きづらい部分もあったり、ただこういったのは地道に歩くことが、有効だと思いますので、関東の方は大学ではないのですが鳥取に縁のある飲食店とかを回ってもらったりしたことはありますし、色々な企業であるとかそういったことも県と連携しながら動きはしてもらっています。個別に関西圏の今回みたいな、きめ細やかな動きになっていないのは実態ですので、また働きかけてみたいと思います。

○下田委員

先ほど塚田委員さんの質問と重なって、回答がちょっと無かったかなと思うのですが学生の説明に行かれるのはいいですが、相手側のリサーチの結果というのをつかんでおられたら教えていただきたい。それから私共の医療・福祉分野というのは非常に人材の確保に苦勞しております。これだけ職はあるのだけど、人が居ないというふうなことで、このあたりについての何かお考えがあるのか聞かせていただきたい。質問ではないですが、あとは移住定住、先般 TV でこれは ABC 放送の関係かもしれないですが、人生の楽園というので、河原の移住されていた方、30 分の番組なのですが、お子様が初めにこちらに来られて、その後で親が来られたという。非常に頑張っておられるし、ああいう番組が全校区で発信されると、あれはいい所ばかりやっておられるので、必ずああいうふうに暮らせるかどうかは分からないですけど、我々も鳥取市と言われたらどこかなと西郷地区とわかるまで見ていて、見ていたらわかったのですが、ああいったものをしていただけるのは非常に良かったかなと。ちょっとした感想です。

○地域振興局 久野局長

大学生が、どうキャッチしているかリサーチしているかということですが、これは確認してみないと分かりませんが、大学等の話の中で、どこまで対応するかというのは非

常に大切なことだと思います。これは調べて、どういう対応をしていくかということを確認してみたいと思います。それと医療の人材ということもあったのですが、移住の相談窓口には、例えば 60 歳前後でこちらに帰ってきて、介護の仕事をされる方も少しいらっしゃいます。そこに仕事があるということで、今日もそういった一組、60 歳すぎの方でしたけど対応してきたような話も聞いておりますので、いろんな仕事の現場があるということで PR しながら対応していきたいと思っております。

○坂本委員

今、ほとんど皆さんの質問の中にあっただけですが、私 2 点お願いとご質問をしたいのですが。お願いは UJI ターンあるいは、県外からの進学者の県内に戻ってきていただく、市内に戻ってきていただく、要するに鳥取市の人口増加対策の部分もあるでしょうし、活性化の部分もあるでしょうし、その中でいかに県外から、あるいは県外の人たちを、こちらで就職していただいて定住していただくかという視点が、あまりに強すぎるのではないかと。逆に来られた方が、どういうきっかけで、どういうモチベーションでこちらに来られたのか、そういう情報でも、こういう情報があればよかったとか。逆にその来られた方から、こういうことをしたらもっと来ていただけますよというツールを頂けたら。それを今度、県外の方・進学者あるいは UJI ターンを希望される方に、一つの決定打ではないですけども、いろいろ一人一人がそれぞれ事情があるでしょうけれどもある程度良いツールになると思いますので、逆に言えば来られた方から、どうして来られたのか、何がきっかけだったのか、どういう情報がよかったのかというリサーチをしていただけたらと思います。それを今度それぞれの政策に反映していただけたらと思います。32 年度までには 100%、120%となるような目標値に到達できると思いますのでお願いしたいと思います。

もう 1 点ですが、連携中枢都市ということがちらっとありました。定住自立圏ビジョンとか、連携中枢都市圏ビジョンとかがあります。これは鳥取市だけの事ではないと私は理解しております。1 市 4 町であり、あるいは新温泉町も入った施策の中で、どうもここらへんに対しても、例えば人口増加対策をしてもやっぱりオーバーラップしている部分もございます。これが恐らくそこら辺を考慮しながら目標値を設定し、目標値にこれだけ到達したなというものを、提示していただかないといけないと思います。私がちょっと関わったところで言うと、病児・病後児ですけども、例えば八頭町や若桜町にはいかないものですから、どこの町も病児・病後児の目標値をもっている訳ですから、それがどこに行くかと言ったら鳥取市であり医療機関をもっている所に行きますので、鳥取市だけが目標値は OK だというのではなく、ある程度そのあたりも配慮した達成度、そこら辺もある程度考慮していかないといけないんじゃないかなと思います。これをどのように目標値に KPI をもってくるのか課題でしょうけれども、どうされていくのか今まさに、ビジョンを作られておりますので、そこら辺を伺いたいと思います。

○地域振興局 久野局長

移住定住の部分で私の応えられる範疇で、この KPI とか、この戦略の中では鳥取市中心のことにしていますけど動きとしては、1市6町を連携した動きを、今どんどん進めていきたいということでそういう動きをしています。例えば関西の「麒麟のまち」を使った相談会では1市6町の担当者が出て相談を受けるとか、平成27年度には、東京・大阪で、それぞれ首長さんに出ていただいて、このエリアの PR をしていくとかそういう動きをしていますし、市の中でふるさと鳥取市回帰戦略連絡会というものを設けておりますけれども、ここにも他の町村にも入ってもらうというような話も進めているところです。そういった動きをどんどん進めていきたいなと思っております。

○安田委員長

それから移住定住者の連絡協議会というのがありますよね、現実として。どうでしょう。実際にミーティングとかいろいろする定期的な会合というのは。

○松浦委員

鳥取ふるさと UI 会があります。予定が重なって参加できてないのですが、移住交流ガーデンを中心として様々な催し、移住者向けの支援をしております。

○尾崎委員

質問ではないのですが、私は朝のテレビで、松任谷由美が国立劇場で前田美波里を見て感動し、そこから音楽の道に入ったと。とても羨ましく思います。というのは鳥取ではそんなすぐ足を運べない状態。文化をしている者にとって鳥取というのは住み辛いというか、私もある楽器をしているのですが今も毎月、大阪や京都に稽古に行っております。やはり、鳥取では足りないので仕方なくそっちの方に出て勉強させてもらっている状況もあり、やっぱり関東とか関西に行きたいという思いは未だにあります。鳥取に定住しろと話がかなり出ていますが、鳥取から離れてでも文化をしたいと思っている私がいるので、文化だけでなく、そう思う方はいろんな分野で、まだたくさんいると思います。夢を実現するためには、農業の方とか、工業の方とか、伝統文化の方はいいかもしれないですが、いろいろな発想を持っている方にとったら、鳥取はどうなんだろうと思いまして。ある程度中央に繋がっているシステムというか色々な発想があった方がいいのかなと。また、鳥取でもこういうことはできますよとか、鳥取でないと学べないことを全国的に PR するとか。今、少年少女合唱団の指導をしているのですが、鳥取大学には教育学部がなくなりましたので、島根大学に取られてしまいましたので、結局、島根でそのまま教員になりますと行って帰ってこないという子が一人いるのですが、帰ってきている子もいるのですが、それもとても苦戦しています。そういう勉強した人がいないと、そういう文化に触れられないというか、そういう人が全部東京に出てしまったり大阪に出てしまったり、文化をしている人が帰ってこられない状態も辛いと考えます。時間になりましたので何も答えていただかなくてもいいですが、そういう発想もいるのかなと。すべて伝統のものとかそういうことだけで全部するのではなく。

もう一つABC放送の最後の移住者はすごくいいなと思いました。そういうのはものすごくいいという感じがありました。質問です、TVでは何人の方がいらっしゃってどういう効果がというのが、分からなかったので、お答えできればお願いしたいです。西郷の前田さんの近くに移住しているIターンの文化の方のですね。下田委員さんが言っておられたのはそのことですよね。

○都市整備部 綱田部長

私、そのTV見てないのですが前田さんを頼ってこられた若い陶芸家の方。

○尾崎委員

頼ってというか、文化芸術推進課が推し進めている事業があると思うんです。Iターンの。多分、創生総合戦略の中にも入っていましたので。

○都市整備部 綱田部長

西郷の工芸の郷づくり構想ということで、西郷の地区がまちづくり協議会を中心として進められています。その中で色々な芸術家、特に陶芸家を入りたいという前田さんの想いのもとで、そんな動きが具体的に始まっている所です。今年の春から九州で修行された東京芸大を卒業された30歳くらいの男性、奥さんも伴ってですけど河原の西郷に引っ越して来られました。また、既にその他にも何人か陶芸家の方がおられますし、色々な工芸の作家がおられます。この前、工芸祭りの第2回の開催など地域を上げてそういった取り組みをされているところです。どんな支援で盛り上げていくか内部で協議したり、地元と話をしながら進めている所です。それがどんどん外に発信されて工芸家だけでなく飲食をされる方も関西から来られてお店をされているという動きも地域を上げて色々な取り組みをされている所です。

5 その他

○創生戦略室 塩谷室長

最後連絡事項でございます。今年度の総合企画委員会はこれで終了でございます。今年度策定を予定しておりました第10次総合計画の後期実施計画、30年度から32年度ですが、来春が市長選になりまして、来年度当初予算は骨格予算になりますので、肉付け予算となる6月補正後、開催の総合企画委員会で案を出したいと思っております。次回は新年度6月議会後に開催させていただきたいと思っております。

6 閉会

○安田委員長

以上をもちまして平成29年度第2回総合企画委員会を閉会いたします。本日はありがとうございました。